

## Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

### 1 製造業

#### (1) 一般機械器具

##### 【景況感】

- ・中国向けの半導体関係、自動化設備需要が継続しており、好況である。
- ・一般産業機械向けが好調時の75%に落ち込み、景況感は普通である。
- ・医療関係以外の分野で先が見通せず、景況感は不況である。

##### 【売上高】

- ・前年は感染症の影響で落ち込んでいたが、現在は感染症前の受注水準に戻っている。
- ・売上高はほとんど変わらない。
- ・売上高は前年同期比10%減少した。

##### 【品目別の状況】

- ・半導体製造装置向けは好調を維持している。
- ・一般産業機械関連の需要が落ち着いてきた。

##### 【受注単価】

- ・鋼材単価上昇分の価格転嫁を進めており、受注単価は上がった。
- ・OEMが中心のため、ほとんど変わらない。

##### 【原材料価格】

- ・鋼材価格の値上げが1月にあった。
- ・鋼材、樹脂部品を中心に価格高騰が続いている。

##### 【その他諸経費】

- ・エネルギー価格の上昇で電気代も値上がりした。
- ・工場稼働時間が増え、電力費負担も大きくなっている。

##### 【採算性】

- ・売上げは減少したが、コスト削減努力と効率化により全体の採算性はほとんど変わらない。
- ・工場の稼働率を高め、無駄の排除を徹底したことにより、収益性は向上した。

##### 【設備投資】

- ・更新設備を中心に実施した。先端設備は納期が大幅に遅れている。
- ・増産を目的とした機械を購入した。
- ・設備投資は実施しなかった。

##### 【今後の見通し】

- ・市場の製品不足は継続しており、在庫調整後も受注は維持される見通し。
- ・経済活動の正常化が不透明であり、どちらともいえない。
- ・一般産業機械向けの受注が落ちており、悪い方向に向かう。

#### (2) 輸送用機械器具

##### 【景況感】

- ・半導体不足に加え、感染再拡大による取引先の工場停止等の影響もあり、不況である。
- ・外注先含め中小零細企業の廃業が増えており、景況感は不況である。
- ・景況感は普通である。

**【売上高】**

- ・売上高は前年同期比2%減少した。
- ・自動車メーカーの生産調整の影響が続いており、売上高は減少した。

**【受注単価】**

- ・鋼材価格高騰の影響で今後一部製品の単価は上がる見込み。
- ・既存主力品の価格はほとんど変わらない。

**【原材料価格】**

- ・メーカーからの有償支給のため、ほとんど変わらない。
- ・鋼材価格が上がった。

**【その他の諸費用】**

- ・原油含めエネルギー価格高騰の影響で電力費等の負担が増えた。
- ・諸経費はほとんど変わらない。
- ・社内努力により前年同期比4～5%減少した。

**【採算性】**

- ・原材料価格高騰の中で価格転嫁できず、採算性は悪くなった。
- ・売上高が減少し、前年同期比で採算性が悪化した。
- ・採算性はほとんど変わらない。

**【設備投資】**

- ・新規受注品に対応の設備投資を実施した。
- ・生産性向上と既存設備の入替えを目的とした機械を購入した。
- ・設備投資は実施しなかった。

**【今後の見通し】**

- ・自動車業界の部品不足が長期化しており、どちらともいえない。
- ・自動車メーカーの生産回復に伴い、良い方向に向かうとみている。

**(3) 電気機械器具****【景況感】**

- ・半導体装置向け部品の受注増が継続しており、景況感は好況である。
- ・化粧品関連はコロナ禍で先が見通せず、不況である。
- ・景況感は普通である。

**【売上高】**

- ・前年には半導体関連需要で売上高が戻っており、前年同期比ではほとんど変わらない。
- ・感染再拡大による影響で前年同期比では売上高が減少した。

**【原材料価格】**

- ・素材加工が中心のため、原材料価格はほとんど変わらない。
- ・原油価格高騰の影響で原材料価格が上がった。

**【その他の諸経費】**

- ・エネルギー価格高騰の影響で電力費や燃料費が上がった。
- ・その他諸経費はほとんど変わらなかった。

**【採算性】**

- ・原材料価格高騰により採算性は悪くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

**【設備投資】**

- ・増産のため新たに機械装置を導入した。
- ・設備投資は実施しなかった。

**【今後の見通し】**

- ・原材料価格の高騰もあり、どちらともいえない。
- ・先行きはどちらともいえない。

**(4) 金属製品****【景況感】**

- ・半導体製造装置向けが好調であり、景況感は好況である。
- ・原材料価格が高騰しており、景況感は不況である。
- ・自動車減産の影響が続いており、めっき関連の受注も落ち込んでいる。

**【売上高】**

- ・前年同期比11.8%増加した。
- ・半導体関連を中心に、前年同月比増加した。
- ・前年同月比で売上高は減少した。

**【受注単価】**

- ・値上げ交渉を行った結果、前年同月比で受注単価が上がった。
- ・価格転嫁ができず、ほとんど変わらない。

**【原材料価格】**

- ・鋼材価格全般が高騰している。
- ・原材料価格は前期比、前年同期比ともに上がった。

**【その他の諸費用】**

- ・外注費が増加した。
- ・電力費負担が増加した。

**【採算性】**

- ・原材料価格と電気代の増加により、採算性が悪化した。
- ・価格転嫁により前期比では良くなった。

**【設備投資】**

- ・社内設備の更新と社屋の一部建替えを実施した。
- ・社員食堂及び研修施設への設備投資を実施した。

**【今後の見通し】**

- ・半導体装置向け需要が継続しており、良い方向に向かうとみている。
- ・ウクライナ情勢の影響により、先行きは不透明である。

**(5) プラスチック製品****【景況感】**

- ・医療機器、食品機械関連の需要が継続しており、好況である。
- ・景況感は普通である。

**【売上高】**

- ・売上高は増加した。
- ・前年同期比で売上高は減少した。

**【受注単価】**

- ・価格転嫁により製品単価が上がった。

**【原材料価格】**

- ・原材料価格は前期比、前年同期比ともに上がった。
- ・原油高騰で原材料全般にマイナスの影響が出ている。

**【人件費】**

- ・人件費はほとんど変わらない。
- ・新規採用と賃金引上げにより増える見込み。

**【採算性】**

- ・原材料価格は上がったが、価格転嫁により採算性はほとんど変わらない。
- ・採算性はほとんど変わらない。

**【設備投資】**

- ・ボイラーの入替を実施した。
- ・既存設備の更新を実施した。

**【今後の見通し】**

- ・感染症の収束と原油価格の動向次第であり、どちらともいえない。
- ・感染症の収束次第だが、良い方向に向かうとみている。

**(6) 食料品製造****【業界の動向】**

- ・廃業により全体の企業数は減少する見通し。
- ・感染症の再拡大により、観光客向けは厳しい状況が続いている。

**【景況感】**

- ・景況感は普通である。
- ・団体観光客向けが低水準であり、不況である。

**【売上高】**

- ・まん延防止等重点措置により、観光客向けの売上げが再び減少した。
- ・前年の巣籠もり需要に比べて落ち着いており、売上高は減少した。

**【受注単価】**

- ・小麦粉等の値上げ分を価格転嫁し、受注単価は上がった。

**【原材料価格】**

- ・特に小麦粉の価格が上がった。
- ・小麦粉、油脂等全般で原材料価格が上がった。

**【人件費】**

- ・新規採用分の人件費が増えた。
- ・人件費はほとんど変わらなかった。

**【採算性】**

- ・原材料費が上がり、採算性が悪くなった。
- ・小麦粉が高騰しているが、価格転嫁により、変わらない。

**【設備投資】**

- ・更新用の設備投資を実施した。
- ・増産のため、包装機を導入した。

**【今後の見通し】**

- ・受注はあるが、材料仕入が不安定な状況であり、どちらともいえない。
- ・感染症の収束次第だが、団体客が戻り良い方向に向かうとみられる。

**(7) 銑鉄鋳物****【景況感】**

- ・原材料費の高騰が続いており、不況である。
- ・景況感は普通である。
- ・機械用鋳物部品の受注が好調であり、景況感は好況である。

**【売上高】**

- ・工作機械用製品を中心に受注が好調であり、前期比で売上高は増加した。
- ・売上高は増加した。

**【受注単価】**

- ・原材料価格高騰分を価格転嫁できており、単価は上がった。
- ・受注単価はほとんど変わらない。

**【原材料価格】**

- ・鉄スクラップの価格は引き続き値上がりしている。
- ・原材料価格は前期比、前年同期比ともに上がった。

**【人件費】**

- ・賃上げにより人件費は増えた。
- ・人件費はほとんど変わらない。

**【設備投資】**

- ・設備投資は行わなかった。
- ・機械設備の更新を実施した。

**【今後の見通し】**

- ・受注は好調だが、ロシアのウクライナ侵攻の影響もあり、どちらともいえない。
- ・原材料価格が高騰しており、どちらともいえない。

**(8) 印刷業****【景況感】**

- ・景況感は不況である。
- ・店舗向けの受注は好調であるが、スクリーン印刷部門は不調である

**【売上高】**

- ・店舗装飾の仕事がコロナ禍前と比べて2倍に増加した。
- ・売上高はほとんど変わらない。
- ・感染再拡大で受注低迷が続いており、売上高は減少した。

**【受注単価】**

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・値上げ交渉中だが、4月以降受注単価は上がる見込み。

**【原材料価格】**

- ・インクの価格が高騰している。
- ・原材料価格は上がった。

**【採算性】**

- ・原材料価格が上がり、採算性は悪くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

**【設備投資】**

- ・設備投資は実施しなかった。

**【今後の見通し】**

- ・原材料価格が高騰しており、どちらともいえない。
- ・感染症の収束次第だが、良い方向に向かうとみている。

## 2 小売業

### (1) 百貨店

**【景況感】**

- ・景況感は不況である。
- ・若干の回復兆しはあるものの、コロナ禍前ほどではない。

**【売上高】**

- ・1月は前年比で増加したが、2月は感染拡大による外出自粛の影響で売上高が減少した。
- ・化粧品は前年同期比では増加しているが、前々年比では88.6%と回復途上である。
- ・宝飾品等の商材は好調である。

**【諸経費】**

- ・人件費は減少したが、広告宣伝費は増加した。
- ・売上高に応じてかかる費用が減少した。

**【採算性】**

- ・耐震工事を実施したため、悪化した。
- ・採算性はほとんど変わらない。

**【今後の見通し】**

- ・厳しい状況は変わらず、どちらともいえない。
- ・感染症の収束次第だが、良い方向に向かうとみている。

### (2) スーパー

**【景況感】**

- ・景況感は普通である。
- ・感染症が収束しない中、大型商業施設の客数は減少しているが、小型店は好調に推移している。

### 【売上高】

- ・感染拡大による外出自粛で衣料品の販売は不調だった。
- ・売上高、客数は前年同期比増加となったが、客単価は前年比割れとなった。

### 【諸経費】

- ・最低賃金の引上げが負担となっており、人件費が増加した。
- ・新規採用により、今後も人件費は増加する見込み。

### 【採算性】

- ・食品の中でも利益率の高い商品の販売が好調で、採算性は良くなった。
- ・人件費や電力費等のコストが増えており、採算性は悪くなった。

### 【今後の見通し】

- ・感染症の収束次第であり、どちらともいえない。
- ・原材料価格の高騰が続いており、今後は悪い方向に向かうとみている。

## (3) 商店街

### 【景況感】

- ・景況感は不況である。
- ・まん延防止等重点措置の期間中は営業自粛をしている店舗が多い。

### 【来街者】

- ・前期に比べて季節柄、観光客が増えた。
- ・まん延防止等重点措置が続いており、来街者は減少した。

### 【個店の状況】

- ・原材料費等の仕入れ値が上がっている状況。
- ・コロナ禍で閉店する店舗がある。

### 【商店街としての取組】

- ・まん延防止等重点措置の期間中であり、人を呼ぶ取組は考えられていない。
- ・各店感染防止対策を施しながら、辛うじて店を開けている状況。

### 【今後の見通し】

- ・感染症の収束次第であり、どちらともいえない。
- ・物価の上昇で消費の落ち込みも予想され、どちらともいえない。

## 3 情報サービス業

### 【景況感】

- ・DXへの取組が増加する一方で、コロナ禍の影響で情報化投資の抑制、延期がみられる。
- ・景況感は普通である。

### 【売上高】

- ・業種、案件項目で受注の増減幅は大きいですが、全体的な売上高はほとんど変わらない。
- ・売上高はほとんど変わらない。
- ・去年は期末に大型案件があったため、前年同期比では売上高は減少した。

### 【製品価格】

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・カスタマイズ製品が多く受注内容で異なるため、ほとんど変わらない。

#### 【採算性】

- ・人件費等の増加があり採算性は悪化した。
- ・追加受注等で人件費が増加した一方で、交通費、交際費の減少があり採算性は変わらない。
- ・採算性はほとんど変わらない。

#### 【設備投資】

- ・老朽化機器の入替えを実施した。
- ・改正電子帳簿保存法対応と伝票類の電子取引データ保存のためのシステムを導入した。
- ・特に大きな設備投資は実施しなかった。

#### 【今後の見通し】

- ・感染症の経済への影響は依然として大きく、今後の動向は不明瞭である。
- ・ウクライナ情勢による燃料費高騰の影響で、顧客の設備投資抑制等の懸念がある。

## 4 サービス業（旅行業）

#### 【業界の動向】

- ・感染再拡大の影響でキャンセルが相次いでいる。

#### 【景況感】

- ・景況感は不況である。

#### 【受注高】

- ・例年1～2月は閑散期だが、感染再拡大の影響で更に減っている。

#### 【受注価格】

- ・受注価格は下がった。

#### 【採算性】

- ・受注が回復しない中で燃料費等のコストが増加し、採算性は悪くなった。

#### 【設備投資】

- ・実施していない。

#### 【今後の見通し】

- ・感染症が収束に向かうとの希望的観測も含め、良い方向に向かうとみられる。

## 5 建設業

#### 【業界の動向】

- ・近隣同業で廃業等の動きはなかった。
- ・感染症の動向とウクライナ情勢の影響で廃業等が増えてくる可能性がある。

#### 【景況感】

- ・昨年のような好況感はない。在庫が不足しており、売上高も横ばい傾向である。
- ・景況感は普通である。

#### 【受注高】

- ・前年並みに推移しており、ほとんど変わらない。
- ・前期比、前年同期比ともに受注高は減少した。

**【受注価格】**

- ・コロナ禍で、一部の製品は納入遅れの影響で価格が上昇し、価格転嫁を実施した。
- ・公共工事の単価に変化はない。

**【資材価格】**

- ・鋼材価格が上がっており、鉄骨物件への影響が大きい。

**【採算性】**

- ・資材価格高騰の影響で、採算性は悪くなった。
- ・安易な値下げを行わないため、利益率に大きな変化はない。

**【今後の見通し】**

- ・感染症の終息が見通せず、どちらともいえない。
- ・感染症の動向やウクライナ情勢により、悪い方向に向かう可能性がある。